

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和3年度第2・四半期
(令和3年7~9月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和3年7～9月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和3年9月）	23
4. 特別調査「中小企業の雇用環境について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和3年7～9月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	-	73
卸 売 業	-	21
小 売 業	-	37
サ ー ビ ス 業	-	48
建 設 業	-	31
合 計	-	210

※新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」は把握不能となっております。

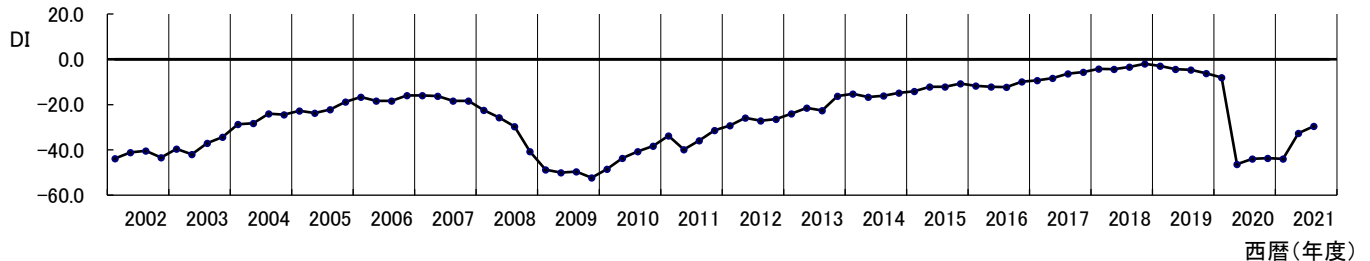
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和3年7～9月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

都内の景況感 2期連続改善の動き—材料・仕入価格の上昇を懸念—

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合—「悪い」企業割合）は4度目の緊急事態宣言により、営業活動自粛の影響を受けた飲食店関連企業、娯楽業など個人消費関連企業にとって厳しい経営環境となり、不調が続いていたものの、全体で-29.5（前期は-32.7）と前期に比べ3.2ポイント改善し、2期連続で回復の動きとなった。

来期は、緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種の更なる普及とともに経済活動が正常化に向かうことが期待されることから、不動産業を除く全ての業種で改善が続くと予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-37.8	-31.5	6.3	-28.5	3.0
卸 売 業	-38.2	-33.0	5.2	-29.0	4.0
小 売 業	-42.2	-41.7	0.5	-39.8	1.9
サ ー ビ ス	-35.8	-31.9	3.9	-29.4	2.5
建 設 業	-9.8	-11.0	-1.2	-9.1	1.9
不 動 産 業	-12.5	-9.4	3.1	-12.2	-2.8
総 合	-32.7	-29.5	3.2	-27.2	2.3

西暦(年度)

<製造業>

業況は落ち込んだ底から脱し2期連続で改善した。売上額・受注残・収益でも電子部品や半導体需要の高まりを背景に水面下ながら引続き改善の動きとなった。価格面では販売価格はゆるやかな上昇傾向が続く、原材料価格の上昇が強まった。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も「販路を広げる」、「経費を節減する」と前期同様の順となっている。

来期の業況は、引続き改善すると見ている。売上額・受注残・収益でも持ち直しが期待できると予想している。

<卸売業>

業況は化学製品・建築材料を中心に回復傾向が続いた。売上額・収益については5期連続の改善が続いている。価格面では仕入価格が上昇傾向を強め、販売価格についても上昇に転じた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」と続いている。

来期の業況は引続き改善が続くと予想しており、売上額・収益ともに悪化幅を縮小させ持ち直すと見ている。

<小売業>

ワクチン接種後の発熱、痛みを和らげる市販薬の需要拡大を受けて医薬品が好調であったものの、業況は前期同様の厳しさで他業種と比べ回復が遅れている。売上額・収益はともに前期並で推移した。価格面では販売価格・仕入価格ともにわずかに上昇した。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」に次いで「大型店との競争の激化」と「同業者間の競争の激化」が同率で続き、重点経営施策の上位2位は前期同様に「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となった。

緊急事態宣言解除にともない経済活動が正常化に向かい人出が戻ることを期待し、売上額・収益の改善を予想しているものの、来期の業況は今期並と見ている。

<サービス業>

業況はワクチン接種率の向上による人流の増加を受けて洗濯・理容・美容・娯楽などが上向き、ゆるやかな改善傾向が窺えた。売上額は5期連続で回復し、収益についても持ち直しが見られた。価格面では料金価格・材料価格は前期並に推移した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となった。

来期の業況は緊急事態宣言の全面解除を受け、行動制限が緩和されることから回復傾向を維持すると予想している。売上額・収益においても改善が進むことを期待している。

<建設業>

他業種と比べ回復が早かった業況は足踏み状態となった。売上額・受注残・施工高・収益においても変動なく推移した。価格面では請負価格はほぼ横這いで、材料価格はウッドショック等の影響を受けて3期連続の上昇傾向となった。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」に次いで「人手不足」と「同業者間の競争の激化」が同率で続き、重点経営施策の上位2位は前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況はわずかに上向くと予想している。受注残は変動なく推移し、売上額・施工高・収益はわずかな改善が見られると予想している。

<不動産業>

業況はゆるやかな改善が続く、売上額・収益においても回復基調となった。価格面では、前期上昇に転じた販売価格は更に上昇傾向を強め、仕入価格は前期並の高い水準となっている。

経営上の問題点の上位2位は「商品物件の不足」と「同業者間の競争の激化」が同率となり、重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」に次いで「経費を節減する」と「販路を広げる」が同率で続いた。

来期の業況は建売・土地売上の動きが弱まると予想され、若干落ち込むと予想している。売上額は変動なく推移し、収益はわずかに厳しさを増すと見ている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。